

日本アディクション看護学会 症例報告投稿論文チェックリスト

投稿する前に、以下の項目に沿って原稿および提出書類を確認し、本チェックリストを原稿とともに提出してください。

各項目を確認し、項目を満たしている場合は「✓」、満たしていない場合は「×」、該当しない場合は「－」を記入してください。空欄のないよう、すべての項目に記入してください。満たしていない項目がある場合、投稿を受け付けないことがあります。

I. 投稿の条件

- ☐ 1. 投稿者（共著者を含む）は、全員が日本アディクション看護学会の会員である。
- ☐ 2. 本報告は、研究を目的として計画・実施されたものではなく、実践を振り返り報告するものである。
- ☐ 3. 原稿の内容は未発表であり、他の出版物に投稿されていない。また、同一または実質的に同一の内容を重複して投稿していない。
- ☐ 4. 当該事例を報告し、共有する意義が明確に示されている。

II. 原稿の形式・内容

- ☐ 5. 原稿は8,000字程度を目安として作成している（図表等を含む）。
- ☐ 6. 原稿はA4判横書きで、1行35字、1ページ28行で作成している。
- ☐ 7. 原稿には、表題、著者名、所属施設名、連絡先等、症例報告投稿規定に定める事項を記載した表紙を付けている。
- ☐ 8. 和文・英文の表題、和文要旨（400字程度）・英文要旨（300語程度）、和文・英文のキーワード（3～5語）を記載し、それぞれの内容が対応している。
- ☐ 9. 英文表題および英文要旨は英文校正を受けている。
- ☐ 10. 原稿は原則として「はじめに」「事例の概要」「実践」「考察」「実践への示唆」「引用文献」の構成となっている。
- ☐ 11. 実践および対象者の反応や変化等が、当該事例の内容が伝わるよう具体的に記載されている。
- ☐ 12. 当該事例から得られた、アディクション支援の実践または教育に活用可能な示唆が明確に記載されている。

III. 引用文献・図表

- ☐ 13. 10編以上の関連文献を引用している。
- ☐ 14. 引用文献を用いて、当該事例における援助実践を振り返り、その意味について考察している。
- ☐ 15. 本文中に引用した文献の表記および引用文献の記載形式は、症例報告投稿規定に従っている。
- ☐ 16. 図表・写真を使用する場合は、明瞭に作成し、図表番号・タイトル・本文中の挿入箇所を明記している。
- ☐ 17. 誤字、人名のスペルミス、文献記載の不備等の誤りはない。

IV. 倫理的配慮・利益相反

- ☐ 18. 対象者が特定されないよう、プライバシーおよび個人情報の保護に必要な措置を講じている.
- ☐ 19. 症例報告として公表することについて、対象者本人から文書による同意を得ている.
- ☐ 20. 所属施設に症例報告の公表に関する審査、承認または届出等の手続きがある場合は、その手続きに従っている.
- ☐ 21. 倫理的配慮の内容および対象者から公表について文書による同意を得たことを本文中に明記している.
- ☐ 22. 倫理的配慮の内容が具体的に明記されている.
- ☐ 23. 利益相反の有無を本文末尾（引用文献の前）に記載している.

V. 提出前の確認

- ☐ 24. 著者情報を記載した「原稿①」と、著者・所属施設等を匿名化した査読用の「原稿②」を作成している.
- ☐ 25. 原稿②では、著者名、所属施設名、倫理審査委員会名、謝辞等、投稿者や関係者を特定・推察できる情報を匿名化している.
- ☐ 26. 原稿①・原稿②、本チェックリスト、利益相反申告書、英文校正を証明する書類、（必要時：症例報告の公表に関する審査・承認を証明する書類）がそろっている.

上記の各項目を確認し、記載内容に相違がないことおよび投稿規定を遵守していることを表明し、本原稿を投稿します.

年 月 日

投稿者氏名